
福島第一原子力発電所の安定化・廃炉と 福島再生の最前線へ

2016年3月24日

(株)アトックス



目次

	頁
1.会社概要	1
2.事業概要	2
3.国内ネットワーク	3
4.福島復興支社移転の目的について	4
5.新事務所の主な用途	5
6.福島復興支社拠点	6
7.体制	8
8.福島復興への取り組み状況	9
9.社員の居住状況	12
10.富岡新事務所への移転にあたっての主な課題等	13
11.通勤負担軽減のための対応	15
12.社員住居(単・独身寮)確保に対する課題	16
13.参考1 富岡町新事務所への通勤	17
14.参考2 2016年3月ダイヤ改定	18

1. 会社概要



01

社名	株式会社アトックス
本社所在地	〒108-0014 東京都港区芝四丁目11番3号 芝フロントビル
代表取締役	会長 鈴木貞一郎 社長 矢口敏和
会社設立	昭和55年9月1日
資本金	1.5億円
従業員	1,577名(平成27年3月末現在)
売上高	291億円(平成27年3月期)
ISO取得	平成12年4月取得
主要関連会社等	

- 株式会社西日本クリエイト
- 株式会社青森クリエイト
- 株式会社福島クリエイト
- 株式会社エフ・ティ販売

アトックスの子会社として、放射線管理、機器点検・保守などの原子力関連清掃、設備管理などの建物総合管理業務まで携わる

- グローブシップ株式会社

ビル管理、原子力施設メンテナンス事業での豊富な経験と実績をいかした、関連資機材の販売

- AREVA ATOX D&D SOLUTIONS CO., Ltd

総合ビルメンテナンス業(設備管理、各種清掃、設備保持、ビル群集中管理、各種工事、マンション管理、コンサルティングなど)

アトックスとフランスのアレバ社との合併会社
アレバ社が世界中で蓄積してきた原子力施設などのD&D分野での高度な技術とアトックスのメンテナンス技術および現場での実践経験とを融合・活用することにより、様々な現場の要求に的確に応える革新的なソリューションを提供

2. 事業概要

株式会社アトックスは、民間で最初に原子力施設内に事業所を開設し、原子力施設の総合的なメンテナンス技術を築き上げてきました。

福島復興業務に関しましては、社の最優先課題として今までの経験を生かし、震災当初から精力的に取り組んでおります。

原子力関連施設における各種事業



原子力発電所保守管理、原子燃料サイクル施設に関する業務、放射性廃棄物処理など原子関連施設における各種事業を行っています。

原子力発電所保守管理

原子燃料サイクル施設関連業務

放射性廃棄物処理

デコミッショニング・設備工事

空調ダクト清掃

RI(放射性物質)及び医療事業関連業務



RI(放射性物質)研究施設支援業務として、研究所、病院などへの各種加速器・医療用PET(陽電子断層写真)の運転員派遣およびメンテナンスを行っています。

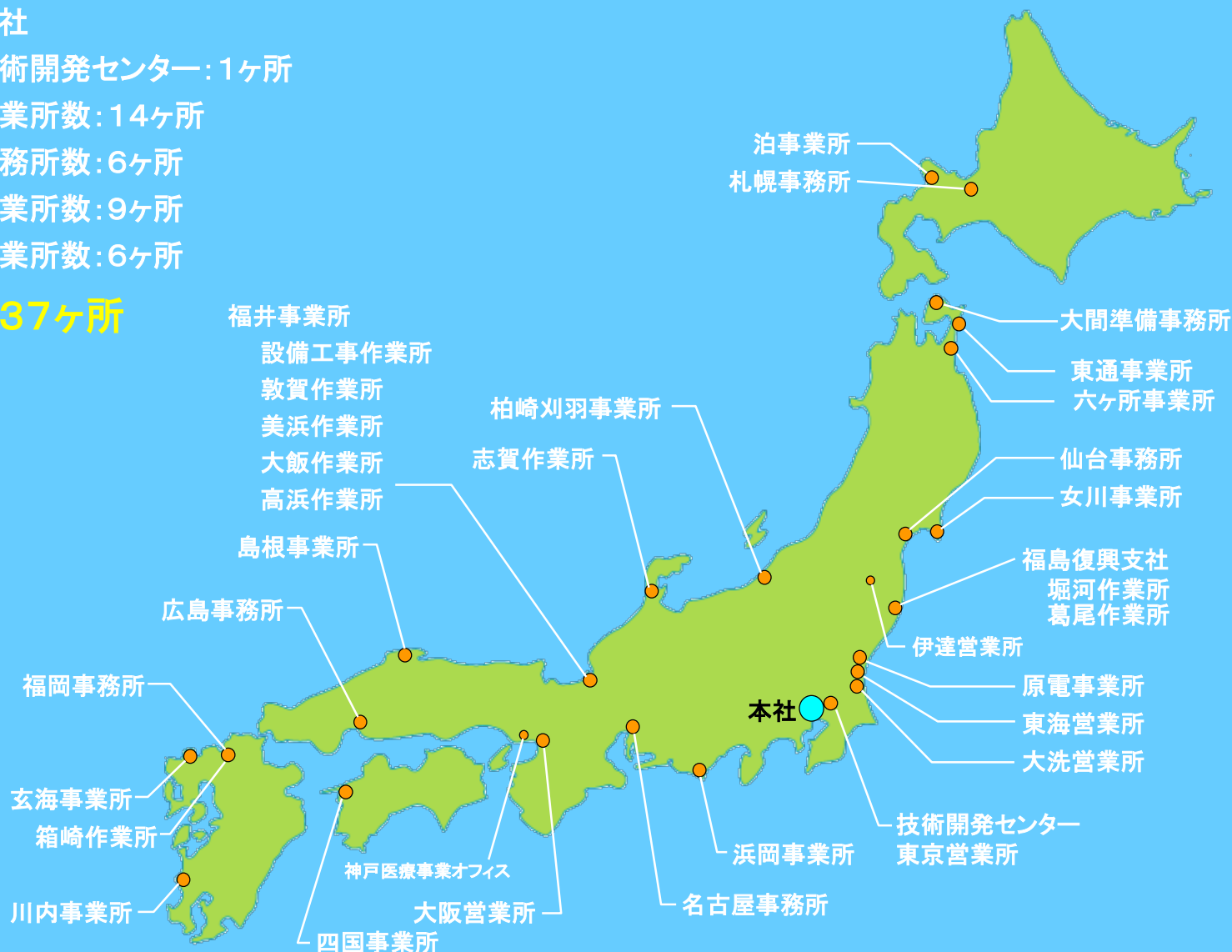
RI研究施設支援業務

PET治験薬製造業務

3. 国内ネットワーク

- ・本社
- ・技術開発センター: 1ヶ所
- ・事業所数: 14ヶ所
- ・事務所数: 6ヶ所
- ・作業所数: 9ヶ所
- ・営業所数: 6ヶ所

計37ヶ所



4. 福島復興支社移転の目的について

＜震災以降の歩み＞

- ・2011年3月 東日本大震災発生直後に いわき市勿来に事務所を再開
- ・2011年4月 福島復興本部を いわき市湯本(後に南白土)に設置
- ・2012年4月 福島統括事務所他へ組織分割 一部を広野町へ移転
- ・2012年6月 広野町へ全面移転
- ・2014年7月 福島復興支社へ組織統合
- ・2016年7月 福島復興支社 富岡町内へ移転(予定)

＜新事務所への移転の目的＞

震災以降、散り散りになった社員の職場復帰・体制の充実と同時に、地域事情、事業環境等の進展に併せて仮設の事務所を設置・移転(浜通りを北上)してきましたが、**今後30年とも40年とも言われる福島第一原子力発電所の廃炉事業のみならず、福島の復興に腰を据えて取り組むべく**、より現場に近い場所に新たな事務所を設けることとしました。

また、双葉郡の中でも、より現場に近い場所に事務所を移転させることにより、現在双葉郡から避難している社員の帰還に向けた弾みにすることも狙いのひとつです。

5. 新事務所の主な用途

- ・各地（広野、四倉、楢葉）にある事務所、倉庫を福島第一原子力発電所により近い場所に統合し、業効率化を進める。
- ・協力企業も利用可能な会議室など集会場所を確保する。（意思や情報の共有）
- ・トレーニング施設、モックアップ施設など、教育研修機関としての機能を充実する。
- ・(株)アナデック（弊社と仏アレバ社との合併企業）を介して導入される海外技術の検証試験場など。
- ・倉庫事業を新規に開始する。



6. 福島復興支社拠点 (1)



現在の広野町内の福島復興支社から福島第一原子力発電所まで
所要時間は、約45分 距離は、約25km

※富岡町内の福島復興支社から福島第一原子力発電所まで
所要時間は、約25分 距離は、約17km

6. 福島復興支社拠点（2）

福島復興支社

福島県双葉郡広野町大字下北迫字折返57-2

福島第二事務所

福島県双葉郡楡葉町大字波倉字小浜作1-1-3

機材センター

福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字仲丸1-87

楡葉第一ストックヤード

福島県双葉郡楡葉町大字上繁岡字才連3-1

楡葉第二ストックヤード

福島県双葉郡楡葉町大字下繁岡字林東54-1

四倉事務所

福島県いわき市四倉町芳ノ沢1-60 K-1

7. 体制(2016.2月現在: 7部 19課 2作業所)

福島地区統括(常務取締役)

福島復興支社

事業管理部

企画課

総務課

工務課

人事労務部

人事労務課

安全・品質保証部

安全品質保証課

放射線管理課

廃炉工事部

施設工事一課

施設工事二課

廃炉工事課

廃炉技術課

設備工事部

件名工事課

設備運転課

設備保守課

環境施設部

環境運営課

施設運営一課

施設運営二課

施設運営三課

地域復興部

環境修復課

堀河作業所

倉庫準備課

葛尾作業所

社員 : 469名

協力会社 : 993名

(一次協力企業50社他)

合計 約1,462名

8. 福島復興への取り組み状況(1)

基盤となる4作業

①廃止措置工事

1～4uセシウム吸着塔運転/保守管理

1～4u多核種除去設備運転/保守管理

1～4u増設多核種除去設備運転/保守管理

2・3uPCV下部調査等業務(原子炉建屋床除染他)

1T T/B地下1階除染

1～4uフランジタンク残水移送

③放射線管理

免震重要棟他の放射線管理

新事務棟・構外休憩所放射線管理

社外放射線管理

②清掃/除染

清掃

新事務棟清掃

免震重要棟他清掃

自治体関連施設清掃

除染

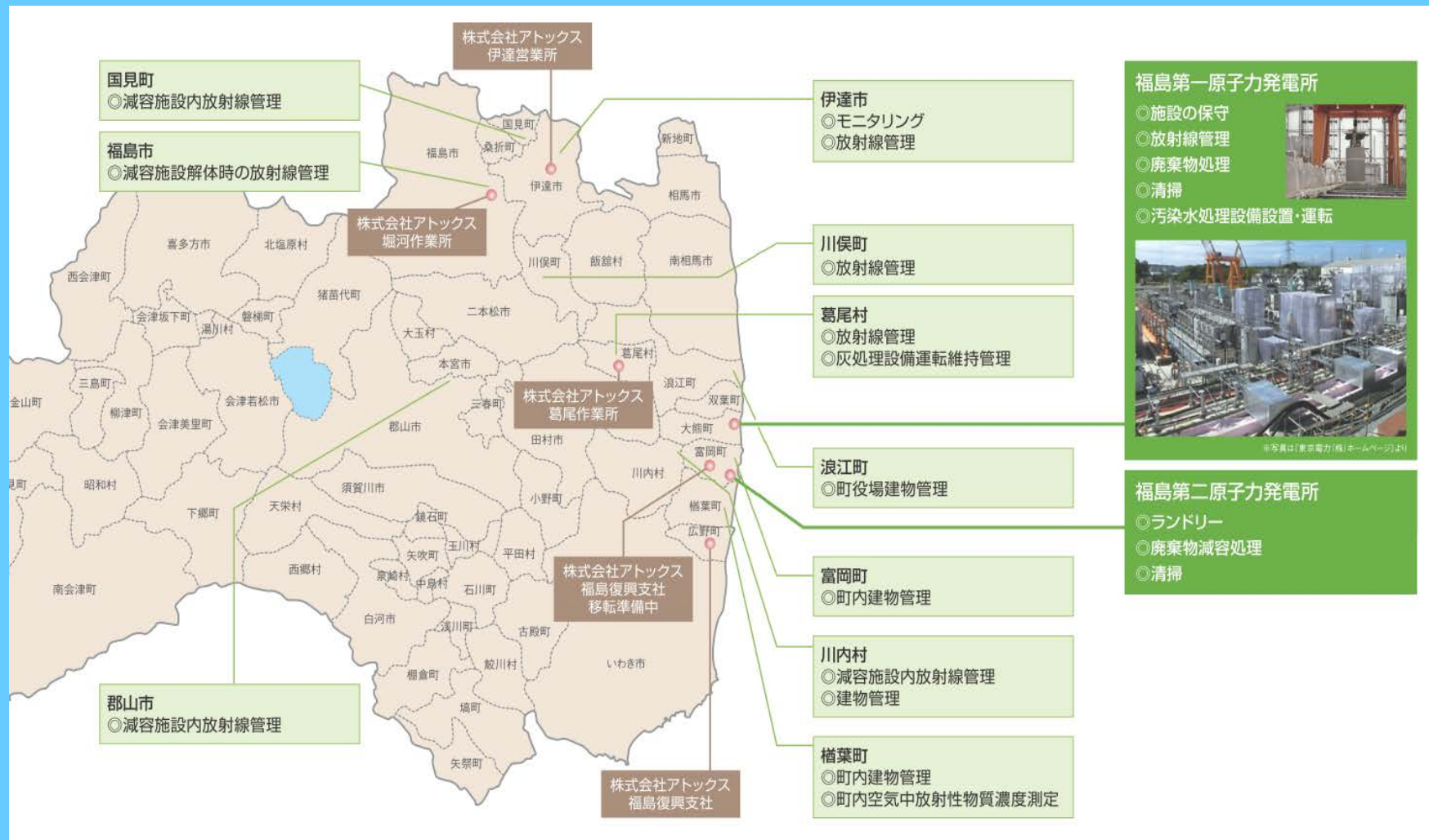
原子炉ウエル・D/SP除染

④廃棄物処理

1F-構内外一般廃棄物処理

2F-雑固体廃棄物処理

8. 福島復興への取り組み状況(2)



8. 福島復興への取り組み状況(3) トピックス

原子炉建屋床面除染 : 小型遠隔除染装置【RACCOON II】

1. 装置概要

福島第一原子力発電所の廃止措置にむけての原子炉建屋の調査・補修等の作業では、高線量環境下での作業となるため、作業員の被ばく低減を図る工法が求められています。このため、原子炉建屋内の線量低減のために遠隔操作で床面を除染する小型除染装置を開発。

2. 特徴

- ・除染ヘッドを交換することで、汚染形態に合わせた除染(ブラシ洗浄/ジェット洗浄/散水・水回収/瓦礫等の押しのけ)を行うことができます。
- ・除染に伴って発生した廃液をブロアの負圧で吸引回収します。

3. 仕様構成

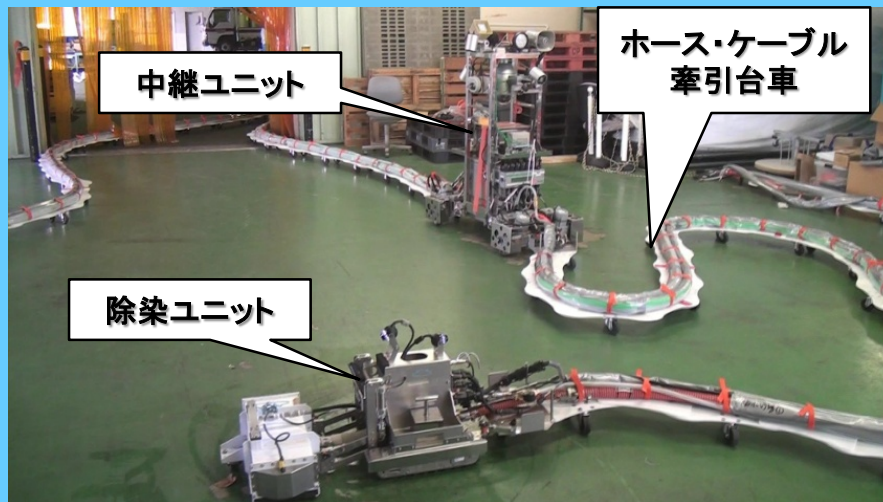
ブラシヘッド



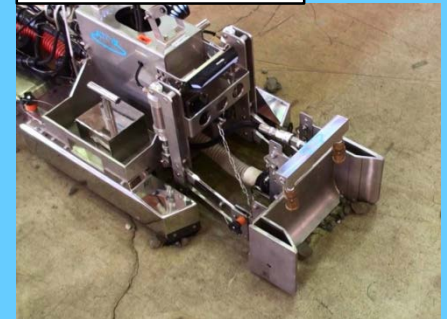
中継ユニット

除染ユニット

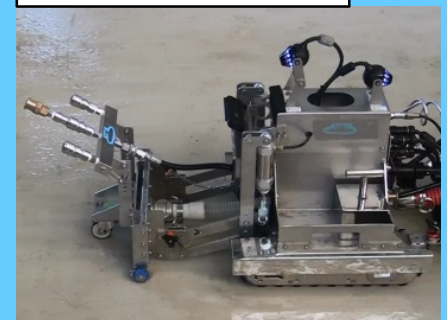
ホース・ケーブル
牽引台車



押しのけヘッド



散水・回収ヘッド



9. 社員の居住状況

震災前

- ・約88%が双葉郡内に居住
- ・いわき市内には約5%が居住

いわき市	22名	}	双葉郡 405名
広野町	11名		
楢葉町	43名		
富岡町	101名		
大熊町	96名		
双葉町	65名		
浪江町	79名		
川内村	8名		
葛尾村	2名		
南相馬市	30名		
相馬市	1名		
田村市	3名		
郡山市	1名		

405名

計:462名

現在

- ・約82%がいわき市内に居住
- ・双葉郡内には約14%が居住
(双葉郡内の居住者のうち半数以上が
独身寮ないし単身赴任寮入寮者)

いわき市	385名		
広野町	32名		
楢葉町	21名	}	双葉郡 55名
川内村	2名		
南相馬市	13名		
相馬市	1名		
田村市	5名		
福島市	10名		

55名

計:469名



10. 富岡新事務所への移転にあたっての主な課題等

(1) 通勤の長距離化・長時間化に伴う心身への負担増

・いわき市内からの通勤者にとり、新事務所への移転により更に長距離通勤化



(例)いわき駅付近から富岡町内へ通勤する場合

約25km、1時間強 ⇒ 約40 km、1時間40分強へ

・遠距離＋交通渋滞により、更に心身への負担が



朝の出勤（いわき→広野間）

国道6号線いわき市久ノ浜近傍

10. 富岡新事務所への移転にあたっての主な課題等

(2) より職場に近い場所での社員住居(単・独身寮)の確保

- ・震災後、浜通り地方の住宅事情は極めて逼迫しており、社員寮(借上アパート等)は最低限の必要数を確保しているが、いわき市中心部での確保は困難
- ・いわき市内においては湯本・小名浜方面にまで点在しているのが実情
- ・いわき市内に震災後新たに自宅を構えた社員の中には、マイカー通勤に片道2時間を要する者も発生

社員(単・独身寮)の入居状況

地 域	いわき市内	広野町	檜葉町
人(室)	69	13	18

※檜葉町内は、一般の宿泊施設

11. 通勤負担軽減のための対応

(1) バス・JR通勤への切り替え

① 自社通勤バスの運行

② JR常磐線の利用

(2) 実施上の課題

① バス通勤運用上の課題

- ・バス便本数確保のための運転手の手当難と費用増
- ・いわき市内の中継地となるモータープールの確保難と費用増
 - ※ 広い土地がなかなか見つからない、原子力作業員に対する風評被害

② JR利用上の課題

- ・列車の本数と停車駅が限られている
 - ※ 利用する列車によっては、いわき駅での接続もネック
- ・マイカー通勤者の駅付近駐車場の確保難
 - ※ 駅付近の月極有料駐車場はほとんど空きがないのが実情

③ マイカー通勤上課題

- ・原発事故の警戒区域等に居住されていた方等の高速道路無料措置が平成29年3月31日まで継続が決定、無料措置が解除された場合、通勤費および通勤時間が増大する

12. 社員住居(単・独身寮)確保に対する課題

(1)方策

より職場に近い場所に安定的に社員住居(単・独身寮)を確保するため、
自前建設もしくは自社向けリース方式により手当

(2)課題

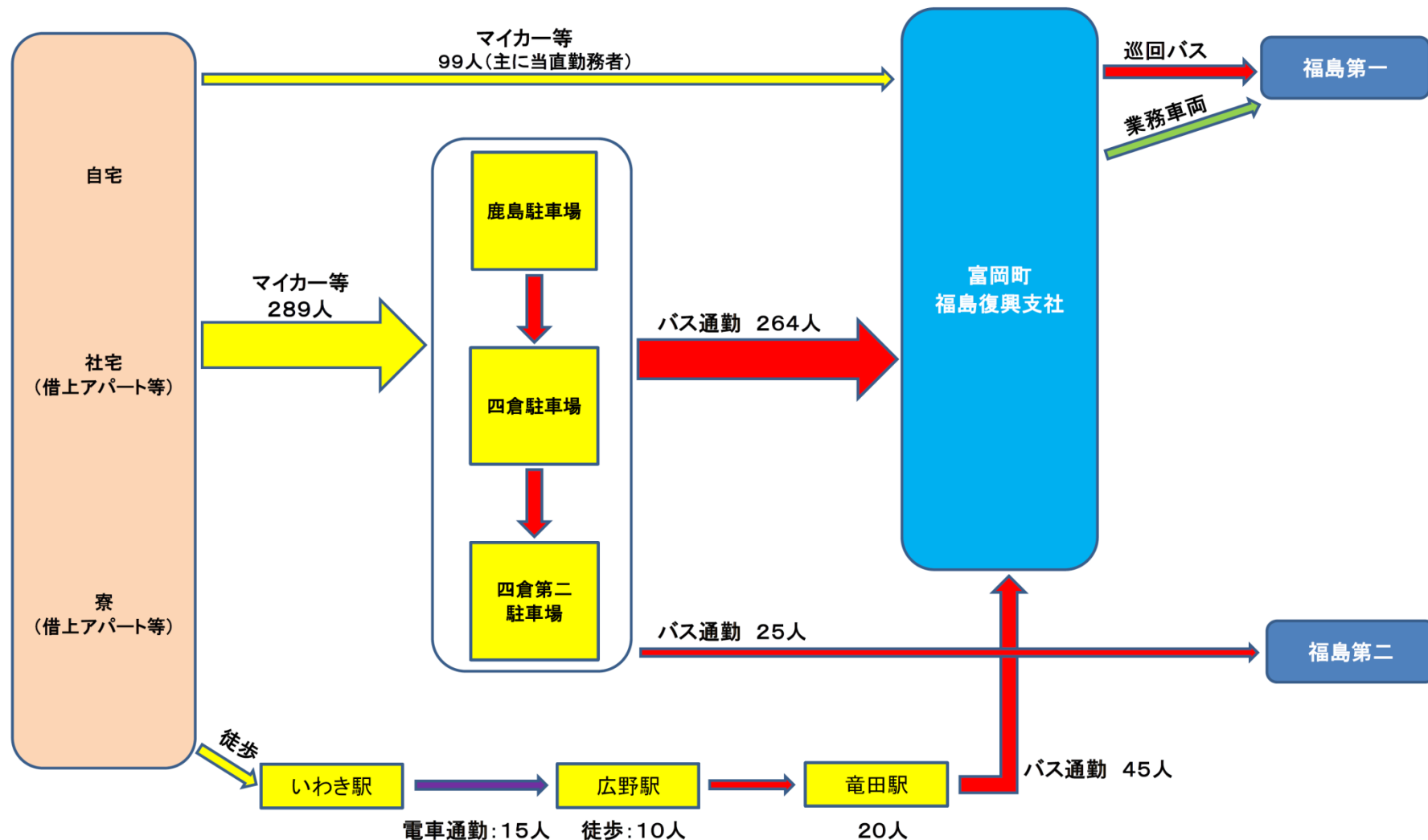
①より職場に近い場所での土地の確保難

- ・まとまった空き地がない
- ・近隣住民の理解を得るのが難しいケースも
(もともとの住民でない人が、寮などに大量に住むことへの不安)

②生活インフラが未整備

- ・より職場に近い場所の単・独身寮候補地付近に飲食店やコンビニ、
その他日常生活上必要な店舗が整っていない
- ・富岡新事務所(富岡町)は、郵便物・宅配便が配送不可のため、檜葉町以南に物流拠点
を確保しなければならぬ、定期便運行といった新たなサポート体制が必要となる

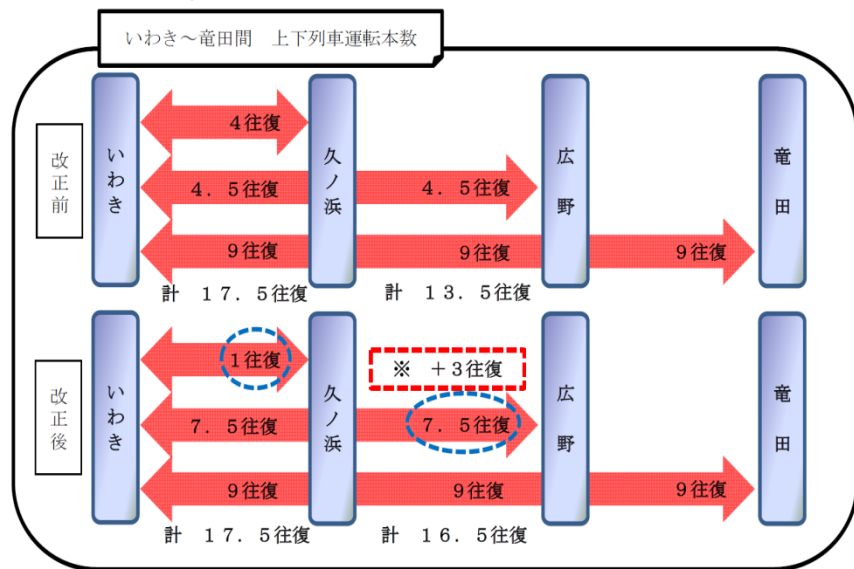
13. 参考1（富岡町新事務所への通勤-想定-）



14. 参考2 (2016年3月ダイヤ改定)

久ノ浜駅始終着列車を広野駅まで延長運転します。

■朝夕の通勤通学時間帯ご利用状況に合わせて、久ノ浜駅始終着列車を広野駅まで延長運転し利便性向上を図ります。



【いわき駅 下り発車時刻、上り到着時刻】

改正前		
いわき時刻	いわき発 下り	いわき着 上り
5時台	09広 43竜	
6時台	41広	03広 31草
7時台	50竜	00竜 35広
8時台	50竜	
9時台		07竜
10時台	51竜	06竜
11時台		
12時台	19広	04竜
13時台	19竜	09広
14時台	17竜	26竜
15時台	18久	35竜
16時台	03久 17竜	00久 50草
17時台	17久 48竜	32竜 53久
18時台		
19時台	25竜	03竜
20時台	22広	41竜
21時台	20久	26広 55久
22時台	22広	

改正後			
いわき時刻	いわき発 下り	いわき着 上り	
5時台	12広 49竜		
6時台	43広	03広 31草 58竜	
7時台	14広 52竜	35広	
8時台		08広	
9時台	22竜	07竜	
10時台	51竜	31竜	
11時台			
12時台	19広	03竜	
13時台	42竜	10広	
14時台	42竜	55竜	
15時台	45広	56竜	
16時台	15竜	43広	
17時台	18広 54竜	25竜	
18時台		24広	
19時台	25竜	04竜	
20時台	22広	41竜	
21時台	20久	26広 55久	
22時台	22広		

※斜字が広野駅発着に延長した列車（運転時刻も変更しております。）

※「草」は草野、「久」は久ノ浜、「広」は広野、「竜」は竜田の始終着駅表示

出典:JR水戸支社公表資料

長年に亘り福島で事業を展開し、これまで頂いてきた数々の温かいご支援に少しでも報いるのは、今この時。

株式会社アトックスは、今後も電力会社、政府、自治体、メーカーを始めとする関係者の皆様と協力して、福島第一原子力発電所の安定化・廃炉と福島の再生に向け、社員一丸となって最大限の努力を傾注してまいります。

